

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3873600377		
法人名	株式会社 新風会		
事業所名	グループホーム 白雲		
所在地	大洲市白滝甲669-4 (電話) 0893-54-0123		
管理者	丸本 真由美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成19年7月3日	評価確定日	平成19年8月30日

【情報提供票より】 (19年6月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 26日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10人, 非常勤 6人, 常勤換算	13.5人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	240 円	昼食 380 円
	夕食	380 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (6月13日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 87 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 <input checked="" type="checkbox"/> あり・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 <input checked="" type="checkbox"/> あり・なし	指定認知症対応型通所介護
届出 <input checked="" type="checkbox"/> あり・なし	短期利用型共同生活介護
加算 <input checked="" type="checkbox"/> あり・なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

脇川の清流を眺める事ができ、季節の草花を楽しむ事ができる小高い風光明媚な所に2階建てのホームがある。建物内はゆったりしていて、利用者は好みの場所でゆったり生活している。開設して2年半が過ぎ、利用者も職員も落ち着いており表情豊かである。開設者が医療法人代表でもあることから、医療との連携は取れており、医師、看護師とは密に関わっている。地域の受け入れもよく、運営推進会議でさらに関係が充実してきている。職員の資質向上への取り組みとして、今後は理論だけでなく、さらに技術の訓練もより充実する事を期待する。同事業所は他にホーム数か所を運営しており、定期的な会議が開催されており、情報交換等出来ている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
地域との交流については、地域の情報を集めて保育園との交流や夏祭りの笹飾りなど一つひとつ検討しながら進めている。また、運営推進委員に見学に来てもらい、その後交流が続いている。生活を豊かにする一つとして利用者の興味のある詩吟の先生に来てもらい、大声で練習することで口腔機能の訓練ともなっている。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
個々に自己評価をし、カンファレンスで話し合い、日々のケアを振り返りながらまとめている。結果をケアに繋げて行きたい意欲があり、今後に期待する。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
会議は定期的開催している。利用者や家族の参加もあり、具体的な話し合いがなされている。近くの住民から周辺の情報が入りやすく、行事等の対応に有効である。今後はメンバー構成や運営についてより検討することを期待する。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
面会時の情報交換はできており、面会の少ない家族への情報交換も電話や郵送で定期的に行っている。また、「ホーム便り」を定期的に発行している。苦情への対応も、ホーム内・外の連絡先を掲示したり、利用開始時に家族等へ説明している。意見等の反映は個々にできるだけ早く対応するよう努めている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
地域の人々との交流は、保育園・小中学校との交流や、散歩や行事での関わりのほか、買い物等の日常生活の中でも受け入れられている。外に出るだけでなく、ホームにも来てもらえる交流も検討している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム白雲

(ユニット名) 1ユニット

記入者(管理者)
氏名 丸本真由美

評価完了日 2007年5月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域密着型サービスとしての理念は明示されていなかった。	※	地域交流と言う文面をもちこんでいく。住み慣れた地域で生きていくことの大切さを理解し介護していきたい。
			(外部評価) 事業所全体の理念に基づいて作られているが、ホーム独自のより具体的なものを職員で話し合っって作成することも期待する。	※	よりホームの特徴がわかりやすく、行動しやすい目標を職員間で検討していくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 人権の尊重、自立支援、生活の継続を、わかりやすい場所に掲示して、話し合いながら実践に取り組んでいる。	※	地域への外出など、月の担当者が、企画している。
			(外部評価) 採用時、会議時、日常のミーティング時等で確認しており、目にふれる所に掲示している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 地域から行事の誘いを受けたり、家族にも報告をしているが、理念の浸透はまだ充分ではない。	※	利用者も、職員も地域の一員となるためには、地域のことに関心を持ち、自然にとけこんでいけるよう生活していきたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の方との、挨拶はできている。野菜を分けってもらったり、手作りの手芸品をいただいた。	※	近所の方が、ホーム行事に気軽に立ち寄ってくださるような工夫をしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) うら盆まつりには、笹飾りを作り参加している。秋祭りには、おみこしが上がって来てくれる。保育所、小学校との交流がある。	※	自治会への参加
			(外部評価) 地域との交流を大切にしており、地域の役員等を通じて行事にも参加している。まだ自治会には加入していないが、情報は日々の付き合いや運営推進会議等で把握している。また、保育園・中学校の体験学習等も受け入れている。	※	地域との交流はかなりできている。出かけることだけでなく、来てもらうことも検討されており、より利用者主体のものとなることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者への貢献はあまり取り組めていない。	※	地域の民生委員さんの見学があった。今後、老人会との交流もはかっていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価の意義について学習した。全員が評価に取り組んでいる。 <hr/> (外部評価) 職員はそれぞれ自己評価をしているため意義は理解できており、質の向上に取り組んでいる。評価後は具体的な改善に取り組んでいる。	※	改善に取り組んでいきたいと思う。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、評価への取り組み状況や意義について報告を行った。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議ではホームの状況を知ってもらうことに努め、取り組みについて理解されている。会議を通じて地域の行事や生活に入る機会となっている。	※ ※	次回の会で、意見を出してもらい、改善、サービス向上につなげていきたい。 メンバー構成や運営についてより検討していくことを期待する。立地条件もあるが、「出かける」「来てもらう」双方向の交流について具体的に検討を続けているので、今後の成果に期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市のサービス担当者会や連絡会に出席して、情報交換や勉強会を行っている。 <hr/> (外部評価) サービス担当者会議や連絡会に出席し、情報交換や勉強会を行っている。生活保護受給の利用者の件では、密に連絡したり相談したりしている。	※	今後も継続していく。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全員の職員が理解してはいない。現在、利用が必要な方に、八幡浜社協から面接をしてもらい、利用をすすめている。	※	勉強会の中に、取り入れている。今後も、活用していけるよう進めていく。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待関連法について学習した。目配りをしてそのようなことがないようにしている。	※	今後も、全職員への徹底をしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が、書面をもって、わかりやすく、説明し同意を得ている。	※	各種の契約、同意書がある。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者とは話すよう心がけている。介護相談員さんが月に1回来られ、利用者さんの話や思いなども伝えてもらっている。	※	利用者の思いが汲み取れるように、各自の研鑽が必要。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に、生活状態の報告をしている。遠方や面会に来られない家族には、電話や手紙連絡。月1回の新聞の発行。金銭出納帳の開示と、印鑑ももらっている。		職員の異動については、家族にきちんと報告されていないので、文書等で報告していく。
			(外部評価) 面会時に情報交換している。また、必要時は電話・郵送等でも伝えている。料金請求時、小遣いの管理も書類で伝えている。職員の異動に関しては採用は伝えているが、退職は伝えていない。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情相談先をもうけている。意見箱の設置。契約時に説明し、介護相談員さんの来所があることも伝えている。	※	面会時には、家族さんの希望や意見、不満、苦情を聞いて、家族と共にサービスの質を上げていく。
			(外部評価) 家族会は行事の時などに不定期に開催しているが十分とはいえない。家族からは面会時などに意見を聞いたり情報交換をしている。運営推進会議の意見や家族の意見は運営に反映させている。	※	円滑な家族会の運営を期待する。また、運営推進会議の内容やメンバー構成等にも期待する。意見は検討し、評価を加える事を期待する。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスがあり、職員の意見を聞いている。法人のホーム長会議が月に1回あり、話し合いの場が設けられている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務の調整はできている。行事への対応として、時間外勤務もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職は、最小限に抑えるようにしている。馴染みの職員がいるため、利用者のダメージは今のところ少ない。	※	交替時には、引継ぎを行い不安を少なくしている。
			(外部評価) あまり離職者はいないが、引き継ぎを行い不安を少なくするよう努めている。また、他フロアの情報も把握できるよう伝えている。	※	職員の異動は家族への文書送付時に文書で知らせる予定がある。今後も引き続き離職防止への努力と交代時の十分な引継ぎを期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 習熟度にあった研修の参加をしている。働きながら、資格試験にも挑戦している。職員一人ひとりが学習意欲を持って、学んでいる。	※	各研修会への参加。職員間で行う勉強会・資格試験へのチャレンジ。業カン、7か時の話し合い
			(外部評価) 採用時のオリエンテーションをはじめ、各項目について教育し、確認している。経験者は内部だけでなく、経験・希望等配慮しながら本人の意思で外部研修受講の機会を設けている。資格取得の研修も勧めている。	※	採用時には、経験年数等の教育プログラムを用いて職員ごとに個別対応をしながら育てることを期待する。また、技術習得は現場に沿ったものを短時間で回数を多くトレーニングする方法について検討することを期待する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 法人内のグループホームとの交流会。サービス担当者会での、同業者との情報交換他グループホームへの運営推進会議への参加	※	サービス担当者会におけるネットワーク作りをしている。
			(外部評価) サービス担当者会議や他ホームの運営推進会議に参加してネットワークができています。しかし、職員の相互訪問や問題解決等にはつながっていない。	※	研修会や勉強会を開催したり、見学しあったりして質の向上に努める事を期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 意識して休憩を取るようにしている。休憩室がないので、研修室にソファを置いている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 管理者、ホーム長、計画作成担当者のポストがある。努力や実績に応じて、研修に参加できる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 依頼後、訪問調査を行い、本人の様子を観察し、本人から話を聞いている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 訪問調査時に、家族にも同席してもらい、困っていることを理解し、知りたいことに対して答えられるようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人にとって、グループホームが本当にあっているか、よく話を聞くようにしている。担当のケアマネジャーさんと相談している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ホームの見学に来ていただき、利用されるかどうか相談している。 (外部評価) 申込み前後に試して生活をしたり、家族の情報を得たりして、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に生活をして、支えあっているという気持ちで仕事をしている。常に人生の先輩ということを頭において、話をきいたり、教えてもらっている。 (外部評価) 職員は共に生活する事を大切にしており、利用者が得意なことを知り、時には学んだり喜んだりしている。また、お互いに感謝の言葉を使っている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者にとって、何が一番いいことなのか家族と共に考え、サービスを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族関係の理解に努め、キーパーソンが誰であるか見極めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族への手紙、年賀はがき、暑中見舞いを一緒に書いている。ドライブを利用して、家の近くを通ったり、思い出の場所への訪問。 面会の自由、家族との、外出、外泊支援。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 難聴のため、利用者間で会話にならない人は、間に入って、会話を取り持っている。利用者の、性格の把握と、相性の善し悪しも考える	※	自室でひとりで過ごす時間が長くないように声かけして一緒に過ごしている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院をされた方には、お見舞いに行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で何気なく探り検討している。その人にあつた声かけをして、希望に添うよう努力している。日々の生活の中で、関心を持って、仕事をしている。	※	家族だけの考えにならないよう、個人の気持ちも大切に考えていく。
			(外部評価) 本人の意思を日常の中で把握し、記録に残し、全員で共有に努めている。利用者のリズムや思いを大切にしたいと話し合っている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 訪問調査である程度把握している。本人や家族から、暮らしぶりを聞いて、理解するようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) その人その人の一日の行動を把握し、できることを一緒に行っている。心身の変化には、気をつけて観察している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月に1回は、ケアカンファレンスを全員で行い、その中で、計画作成している。本人、家族の参加は、少ない。	※	本人や家族の意向は、聞いているが、作成現場に参加してもらええるような努力が必要。
			(外部評価) 月1回ケアカンファレンスを開催し、本人、利用者、家族の希望を受け、利用者本位の計画を作成している。また、担当職員を決めて対応している。家族の面会、書類郵送、電話連絡等、機会あるごとに情報収集している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間に応じた見直しはしているが、遅れがちである。現状に即した計画を作っている。家族には、電話連絡することもある。	※	期間に応じた見直しを、早めにしていく。
			(外部評価) 定期的に見直し、状況が変化すればその都度見直し・評価・計画をしている。見直しの際には家族の情報も集めている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に介護日誌に記録している。利用者用の申し送りノートにも気づき等記入し、読むとサインをして、情報の共有をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族の同意を得て、認定更新時の立会い。受診の介助 自宅への荷物とりや郵便局利用の介助	※	
		(外部評価) 受診、理美容院は、ホーム関連だけでなく、本人の希望に沿った所へも状況により家族と相談して支援している。自宅や墓参り等も同じである。			

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 生活保護を受けている人がいるので、民生委員さんのお世話になっている。避難訓練、救命講習をうけている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービス利用は、ほとんどしていない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターより、入居の問い合わせがある。今後も協働していきたい。		要支援2の方がいるので、協働していきたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の往診があり、利用者さんの声にも耳を傾けてもらっている。他の希望する医療機関にも受診している。 (外部評価) 法人代表者が医師であり、関係医療機関との連携は密であり、診療はスムーズにできている。医師、看護師の指導も受けている。往診については利用者・家族の要望に沿っている。	※	今後も、医療との連携を密にしていく。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要により専門医の受診を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 毎朝、連携医療機関の看護師に、健康状態の報告をしている。看護職のスタッフが、日常の健康管理を行い、必要時に、報告、指示を受けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 医療機関と連携して、情報交換している。いつでも退院していいように、準備をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制についての同意書を取っている。家族の意向を確認しているが、重度化した場合は再度話し合っている。 (外部評価) すでにホームでのターミナルも経験しており、ホーム利用時からホームの方針を説明している。また、状況に応じて話し合っている。家族の待機場所等も検討している。	※	家族の希望により、ターミナルケアを行った。今後も、全員で方針の共有をしていくことが大切。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) フロア内のスタッフ、2Fのスタッフの協力で、できる介護を行い、医師、看護師の指示のもとチームでの見取りを行った。今後の検討や、準備を行っている。	※	見取りの後、今後の課題について話し合った。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ホームでの生活状態を報告し、情報交換している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりの声かけや、接し方に気をつけている。個人の守秘義務を守っている。 (外部評価) 態度はやさしく、言葉かけや対応は丁寧になっている。記載された記録類の取り扱い・保管も適切である。家族との情報交換、職員間の情報伝達にも気をつけている。	※	誇りを傷つけるような声かけや対応をしない。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 入浴や外出など、本人にわかりやすい説明で自己決定できるよう促している。食べたいものや、着る服など選んでもらう。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人がしたいと思っていることを大切に、毎日が安心して楽しく過ごせるよう支援している。できる範囲で、個別の支援も行っている。 (外部評価) ホーム内の大まかな時間の流れはあるが、利用者個々の生活パターンに基づいて落ち着いた生活を送っている。希望にはできるだけ沿った支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) カットや毛染めなど行きつけの美容院を利用されたり、出張美容の利用など、本人の好みの支援をしている。外出時は、おしゃれをするように支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 常に一緒に、準備、片付けをその人の力量に合わせてしている。 (外部評価) 利用者の希望も取り入れている。料理の得意な方は準備から参加し、片付けも力量に応じて参加するなど、個々のペースができています。職員も同じテーブルで食事をし、食事時間が長い方にも時々声をかけ、支援しながらゆったり食事をしている。	※	今後も続けていきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 希望により、部屋にお菓子をおいている。日常にお酒を飲まれる人はいないが、花見や誕生会の時など、お酒を飲まれる人もいます。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) トイレ誘導して、失禁なく過ごせるよう支援している。入所当初より、おむつや尿とりの使用量が全体的に減少している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) その人に合わせた入浴時間を取っている。熱い湯の人、ぬるい湯の人など時間帯をずらしている。 (外部評価) 利用者の希望を聞いて支援している。入浴を嫌がる人には職員の対応を変えたり、他の時間を利用したりと工夫している。また、夜の対応もあれば応じるようにしている。	※ ※	夜間浴はしていないが、今後必要時には、検討している。 利用者の入浴習慣を尊重し、夜の希望もあれば検討したいと考えているので、今後の対応を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 早寝、早起きの人、なかなか寝付かれない人への対応をしている。表情や、行動で、休息をするように声かけしている。		
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 料理、歌、裁縫、ちぎり絵、テレビなど好きなことをして、過ごせるように、できるだけ場を支援している。 (外部評価) 料理、洗濯物の片付け、菜園の手入れ、散歩時に花の名前を教えてもらう、裁縫、ちぎり絵、歌等で楽しんだり、自信が持てるよう支援している。	※	ドライブ、庭いじりなど、その日に応じて、楽しく支援している。季節の行事を取り入れている。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理をしている人もいる。買い物時は、自分で支払いをするよう、職員が傍で支援している。施設管理を希望している人が多い。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その人の体調に応じて声かけしている。中庭が広いので、一人ひとりに合わせて外に出ている。 (外部評価) 1日1回は外出できるよう配慮している。ホームの外は急な坂道となっており、買い物や外出は車で下ることが多い。車いす利用者は2ユニット3名程度いるが、それぞれ外出を楽しんでいる。	※ ※	建物の下が下り坂なので、車を使用する事が多い。前の土手まで車で行って、土手の上を散歩した。 散歩、ドライブ、買い物、お茶等のほか、個々に馴染んだ場所へ出かける支援を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) できるだけ行事に取り入れて支援するようにしている。外食、ふるさとドライブ、詩吟大会等。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の取次ぎや、手紙の上書き、代読などの支援をしている。耳が遠い人が多いので、一部の人である。	※	年賀状と暑中見舞いは、職員と一緒に書いているので続けたいと思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも面会できる。居室で話したり、フロアで話す人もいる。椅子を準備して、湯茶のサービスをしてゆっくりとくつろいでいただく。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。	※	禁止となる具体的な行為について、勉強を行った。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、鍵をかけることなく、オープンにしている。 (外部評価) 日中は開錠しており、自由に入出入りすることができる。チャイムは作動しているが、音は小さくしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 徘徊のある人には、鈴を手押し車につけて、夜間すぐに対応するようにしている。一人ひとりに気配りをして、どこで、何をしているか、スタッフ間で協力して見守りをしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険物は、夜間は、決まった場所へ保管している。	※	認知症も年々進行していくので、一人ひとりの物についても、家族と話あっていくことが必要。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 形式にとらわれず、すぐ書けるように、用紙をおいているが、最近は、記入が少ない。気がついたことは、報告し、再発防止につとめている。	※	ちょっとしたことでもいいから、書く習慣をつけていく。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命講習を1年に1回行っている。	※	今後も続ける。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 職員、利用者の訓練は、定期的に行っているが、地域の人々との訓練はできていない。 <hr/> (外部評価) 職員や利用者は定期的に訓練をしている。消防署等の専門的な助言を受けている。地域の人々への訓練への参加協力を検討しているが、まだ実践できていない。	※	近所の協力を得られる人にも参加を働きかけていく。 <hr/> 近所や地域の人々と共に訓練できるように検討しており、できるだけ早く実現することを期待する。また、火災だけでなく地震等災害についても検討することを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 面会時や、電話で、日常生活の変化やリスクについて、説明している。	※	身体機能は、低下していくので、家族との話し合いはこれからも必要である。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日勤者、夜勤者を中心に、常に、変化を確認している。申し送りをして、情報の共有、医師の指示を受けて対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全員が理解しているとはいえないが、服薬する薬が分かる体制にしている。担当を決めて、仕分け、確認をしている。飲み忘れがないよう、毎食後、手渡し、確認している。	※	ローテーションをして、全員が薬のことを理解する体制作りをしたい。副作用についても勉強していく。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 朝の体操、歩くことの声かけ。朝起きた時に、1杯の水を勧めたり、牛乳を飲んでもらっている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、歯磨き誘導、見守りをしている。チェック表に記入。ポリドントを週1回施行。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 法人の他GHと同じ食事メニューで、野菜はしっかり摂れていると思う。一人ひとり、体重の増減を気にしながら、量の調整をしている。 <hr/> (外部評価) 利用者個々の食事量や水分量は記録しており、食事の仕方や好み等も把握し、献立に活かしている。できるだけ季節の食材を利用できるようにしている。また、体重測定や血液検査等で評価している。	※ ※	水分量の少ない人もいるので気をつけたい。 摂取量の把握や栄養バランス等、季節毎に専門的に数値として把握しておく事を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルがある。インフルエンザワクチンの予防接種。毎日の清掃、定期的な手すりなどの消毒。	※	感染症流行の情報に気をつけて、早めに対応していく。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日、新鮮な食材が届く。台所や冷蔵庫もきれいに片付けられている。衛生管理も、普段できていないところは、1ヶ月、半年をめぐりに担当者が、清掃している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 門は、開放していて、誰でも気軽に出入りできる。玄関は、呼びベルがある。広々とした中庭や花壇があり、季節の花が咲いていて、明るい。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアは、カーテンを利用し、トイレは換気や防臭に気をつけている。廊下は、ちょうどよい広さで、落ち着く。 (外部評価) 畳やいすが置かれてあり、好みの場所で寛ぐことができる。台所もオープンで利用者と共に調理しやすい。トイレ、風呂も手すりや床に工夫があり利用しやすい。外の風景も目に入りやすく、季節の飾りや草花が置かれている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳や、椅子があり、自分の好きな場所でくつろぐことができる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものや、好みのものをおいて、一人ひとりの個性が出ている。何も置くことが、できない人もいる。 (外部評価) 利用者それぞれにタンス、テレビ、仏壇、絵、人形等馴染みの物を持ち込んでおり、敷物や配置もさまざまに個性がある。	※	何も置かない人でも、何か気に入ったものがあるかもしれないので、そのための努力は、していかなければと思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 掃除の時、天気の良い日など、戸、窓を開けて、換気をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自分でできることはしていただき、できないことはそっと手を差し出す。手すりを利用して、日常生活ができています。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 本人の顔写真を貼ったり、名前を付いたりしている。声かけにより、不安をなくし、安心できる環境作りを目指している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭は芝生で、歩きやすく、花壇や畑があり、野菜の収穫を楽しめる。ベンチで日向ぼっこなどして楽しんでいる。外やベランダに洗濯物が干せる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる 自己評価	1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんど掴んでいない 日々、一緒に生活する中の話や行動から掴んでいるが、一部認知症のひどい人、精神発達遅滞など、コミュニケーションの難しい人は、分かりにくいことがある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない 午後からは、ゆっくり、ゆったりと過ごせる時間がある。一緒に話をしたり、レクリエーションをしたり、徘徊の人を見守りながら、過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 自己評価	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 一人ひとりのペースは、大切にしている。認知症が進み、声かけ、見守り、介助がないと、頭が混乱して、何をしたいのかわからない人がいるので、気をつけてはいるが、職員のペースになってしまっていることもある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 毎日、何かしらの笑いがあり、楽しく過ごしている。が、一部反応の少ない人もいる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 毎月、買い物や、外出など、希望に添うようにしている。が、個人で外出希望が多い人がいて、対応しきれていない。ほとんどの人は、家に帰ってみたい思いを持っているが、家族との、かねあいもあるので、難しい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 見守り対応できているが、立地上、門の下の坂道が危険である。皆、高齢で、持病があり、認知症ゆえ自覚症状や訴えが少なく、安静にできない人もいるため、医療連携体制は強化している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 皆、穏やかに生活されている。それぞれに、したいこと、できることを支援している。うれしい、楽しい、ありがとうなどの、言葉が聴かれる。また、不平、不満も表してくれる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価)	1 ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない 信頼関係は、できていると思うが、おおらかな家族、細かいことまで求める家族など、個人差がある。面会時には、家族と話すようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまにある 4 ほとんどない 地域の人が、気軽に立ち寄ってくれるまでには、まだなっていない。家族が、グループホームに入所していることを知らせていない場合、馴染みの人の訪問は、難しいように思いますが、。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	保育所訪問の時、保護者の方に椅子をだしていただいたり、運動会の時など、席を設けてもらっている。うら盆祭りの参加では、公民館の方や、商工会議所の方の協力を得られた。
98	職員は、活き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員は、毎日、元気で、明るく、楽しく仕事をしている。時には、しんどい時もあるが、プロとして、自己の健康管理と、精神の安定が必要だと思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	楽しく共同生活を送れていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	意見箱への意見や苦情がなく、本当に満足されているのか、あるいは、本心を伝えきれていないのかわからない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設の中庭からは、清流肱川のゆったりした眺めを見ることができ、ホームの2本の桜が季節を感じさせてくれます。毎月1回、詩吟の先生に、声だし練習や歌を指導していただき、口腔機能が低下しないように、日々取り組んでいます。地域行事の白滝うら盆祭りでは、笹飾りを作り、通りにかざってもらっています。また、保育園児との、楽しい交流もしています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム白雲

(ユニット名) 2ユニット

記入者(管理者)
氏名 丸本真由美

評価完了日 2007年5月31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域密着型サービスとしての理念は明示されていなかった。	※	地域交流と言う文面をもちこんでいく。住み慣れた地域で生きていくことの大切さを理解し介護していきたい。
			(外部評価) 事業所全体の理念に基づいて作られているが、ホーム独自のより具体的なものを職員で話し合っって作成することも期待する。	※	よりホームの特徴がわかりやすく、行動しやすい目標を職員間で検討していくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 人権の尊重、自立支援、生活の継続を、わかりやすい場所に掲示して、話し合いながら実践に取り組んでいる。	※	月の担当者が、地域行事への参加や、地元への外出を企画している。
			(外部評価) 採用時、会議時、日常のミーティング時等で確認しており、目にふれる所に掲示している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 地域から行事の誘いを受けたり、家族にも報告をしているが、理念の浸透は、まだ充分ではない。	※	利用者も、職員も地域の一人となるためには、地域のことに興味を持ち、自然にとけこんでいけるよう生活していきたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ご近所の方との挨拶はできている。	※	気軽に立ち寄り、利用者さんと話ができるような近所づきあいをしていきたい。ホーム内行事への参加依頼。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域行事に参加している。	※	自治会への参加 地域の奉仕活動への参加
			(外部評価) 地域との交流を大切にしており、地域の役員等を通じて行事にも参加している。まだ自治会には加入していないが、情報は日々の付き合いや運営推進会議等で把握している。また、保育園・中学校の体験学習等も受け入れている。	※	地域との交流はかなりできている。出かけることだけでなく、来てもらうことも検討されており、より利用者主体のものとなることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者への貢献はあまり取り組めていない。	※	地域の民生委員さんや、一部の老人会の人たちの見学があった。老人会との交流もしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価の意義について学習した。全員が評価に取り組んでいる。 (外部評価) 職員はそれぞれ自己評価をしているため意義は理解できており、質の向上に取り組んでいる。評価後は具体的な改善に取り組んでいる。	※	改善に取り組んでいきたいと思う。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 推進会議では、取り組みを報告して、白雲がどのような所なのか理解してもらっている。 (外部評価) 運営推進会議ではホームの状況を知ってもらうことに努め、取り組みについて理解されている。会議を通じて地域の行事や生活に入る機会となっている。	※	ホーム内のサービス向上にむけて、意見を大切に、地域との協調性が図れるよう取り組んでいきたい。 メンバー構成や運営についてより検討していくことを期待する。立地条件もあるが、「出かける」「来てもらう」双方向の交流について具体的に検討を続けているので、今後の成果に期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市のサービス担当者会への参加情報の交換や勉強会をしている。 (外部評価) サービス担当者会議や連絡会に出席し、情報交換や勉強会を行っている。生活保護受給の利用者の件では、密に連絡したり相談したりしている。	※	今後も参加していく。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用している人がいる。定期的な訪問を受けたり、必要時には、ホームより電話連絡している。毎月、新聞も送っている。	※	全職員が制度を理解して行くことが必要で勉強会の中に取り入れている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者、ホーム長は、常に気をつけている。	※	高齢者虐待防止法について学習した。全職員への徹底をしていく。

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が、書面をもって、わかりやすく、説明し同意を得ている。	※	各種の契約、同意書がある。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者とは話すよう心がけている。介護相談員さんが、月に1回来られ、利用者さんの話や思いなども伝えてもらっている。外出先の希望、食べたい物の希望など。	※	月の担当者が、利用者さんの思いをくみ、行事の企画を行い実行している。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時には、最近の様子を伝えている。健康状態に応じて、受診の相談、報告 金銭管理の報告、必要時、電話や手紙での連絡 毎月の新聞の発行	※	職員の異動について、報告が遅れているので文書で知らせていく。
			(外部評価) 面会時に情報交換している。また、必要時は電話・郵送等でも伝えている。料金請求時、小遣いの管理も書類で伝えている。職員の異動に関しては採用は伝えているが、退職は伝えていない。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付を設けている。苦情として口答で、電話の取次ぎに手間取る点を上げられた。	※	電話回線工事をしてもらい、内線が使用できるようになった。
			(外部評価) 家族会は行事の時などに不定期に開催しているが十分とはいえない。家族からは面会時などに意見を聞いたり情報交換をしている。運営推進会議の意見や家族の意見は運営に反映させている。		円滑な家族会の運営を期待する。また、運営推進会議の内容やメンバー構成等にも期待する。意見は検討し、評価を加える事を期待する。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスがあり、職員の意見を聞いている。ホーム長会議が月に1回あり、話し合いの場が設けられている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務の調整はできている。行事への対応として、時間外勤務もある。	※	必要に応じ柔軟に勤務調整を行うことができる。

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) やむを得ず異動する場合があるが、開設当初からの職員がいて、馴染みの関係を大切にして、不安を最小限に抑えるようにしている。	※	引継ぎをしっかりと行うようにする。
			(外部評価) あまり離職者はいないが、引き継ぎを行い不安を少なくするよう努めている。また、他フロアの情報も把握できるよう伝えている。	※	職員の異動は家族への文書送付時に文書で知らせる予定がある。今後も引き続き離職防止への努力と交代時の十分な引継ぎを期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 習熟度に合った研修の場への参加。職員一人ひとりが学習意欲を持って、レベルアップに力を入れている。	※	各研修会への参加。職員間での勉強会。資格試験へのチャレンジ 業カン、77分時の話し合い
			(外部評価) 採用時のオリエンテーションをはじめ、各項目について教育し、確認している。経験者は内部だけでなく、経験・希望等配慮しながら本人の意思で外部研修受講の機会を設けている。資格取得の研修も勧めている。	※	採用時には、経験年数等の教育プログラムを用いて職員ごとに個別対応をしながら育てることを期待する。また、技術習得は現場に沿ったものを短時間で回数を多くトレーニングする方法について検討することを期待する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 社内のグループホームとの交流会 サービス担当者会での同業者との情報交換、勉強会	※	運営推進会議への参加 サービス担当者会におけるネットワーク作り 研修者の受け入れ
			(外部評価) サービス担当者会議や他ホームの運営推進会議に参加してネットワークができています。しかし、職員の相互訪問や問題解決等にはつながっていない。	※	研修会や勉強会を開催したり、見学しあったりして質の向上に努める事を期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 休憩時間を取りにくいいため、時間を決め、意識して休むようにしている。 休憩室がないので、研修室にソファを置いている		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 管理者、ホーム長、計画作成担当者のポストがある 努力や実績に応じて、研修に参加できる。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 依頼後、訪問調査を行い、本人の様子を観察し、本人から話を聞いている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 訪問調査前に、家族の困っている事を理解し、調査時にも家族が知りたい事に対して答えられるようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人にとって、グループホームが本当にあっているかどうか、よく話を聞くようにしている。担当のケアマネジャーさんと相談している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ホームの見学に来ていただいたり、何回か通ってもらったりして、利用されるかどうか相談している。 (外部評価) 申込み前後に試して生活をしたり、家族の情報を得たりして、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の経験を通じ、色々な事を話したり、一緒に作業して、手伝ってもらったことに対して、感謝の言葉を伝える。 (外部評価) 職員は共に生活する事を大切にしており、利用者が得意なことを知り、時には学んだり喜んだりしている。また、お互いに感謝の言葉を使っている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族からの情報を大切にするとともに、面会時等に最近の様子を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者さんが、誰を大切に思っているか理解をし、本当に必要な時に、家族の協力を得られるようにしている。家族の生活も理解する。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の自由。家族との外出や、外泊の支援。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 仲のよい利用者さんは、各お部屋を訪問したり、食卓での座を近くにして話ができるようにしている。	※	よい関係ができていますので、体調不良でフロアに出られないと、心配をしてください。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 継続的な関わりを必要としている関係は、現在は無いが、利用者さんの様子を家族や知人に会った時に聞く事はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人と家族の希望を、日頃の会話の中より知り、マネジメントを行っている。また、困難な場合は、日頃の様子より検討。 (外部評価) 本人の意思を日常の中で把握し、記録に残し、全員で共有に努めている。利用者のリズムや思いを大切にしたいと話し合っている。	※	家族だけの考えにならないように、利用者の気持ちも大切に考えていく。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人より話が聞けない場合は、家族に話を聞いたり、写真から暮らしぶりを理解し、サービスの利用についても把握している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとりの過ごしたいように一日を過ごしてもらっているが、心身の変化には気をつけて、コミュニケーションを取っている。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月に1回は、職員全員でケアカンファレンスを行いモニタリングを行うとともに、本人、家族の様子や希望なども話し合い計画に入れている。		
			(外部評価) 月1回ケアカンファレンスを開催し、本人、利用者、家族の希望を受け、利用者本位の計画を作成している。また、担当職員を決めて対応している。家族の面会、書類郵送、電話連絡等、機会あるごとに情報収集している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) その都度、話し合いを持ち、見直しをして、家族にも情報を提供している。		
			(外部評価) 定期的に見直し、状況が変化すればその都度見直し・評価・計画をしている。見直しの際には家族の情報も集めている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録があり、日々の気づきを記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診介助、重度化への対応 利用者さんの自宅訪問（必要時）	※	本人、家族の希望により、自宅近くの同法人内のグループホームへ移られた。
			(外部評価) 受診、理美容院は、ホーム関連だけでなく、本人の希望に沿った所へも状況により家族と相談して支援している。自宅や墓参り等も同じである。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 避難訓練や、救命講習指導を受けている。本人の意向や必要性に応じて、ボランティアの人がいれば、協力しながら、支援していきたい。	※	婦人会の方の訪問、小学生、保育園児の訪問運動会の見学 介護相談員さんの来所など、取り組んでいる。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向や家族の希望に応じて、利用できるように支援していきたい。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今後地域包括支援センターと協力して、利用者さんにとってより良い介護が得られるよう対応していきたい。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の往診があり、利用者さんの声にも、耳を傾けてもらっている。家族や本人の希望により、なじみの病院での治療を受けている。 <hr/> (外部評価) 法人代表者が医師であり、関係医療機関との連携は密であり、診療はスムーズにできている。医師、看護師の指導も受けている。往診については利用者・家族の要望に沿っている。	※	歯科、眼科、皮膚科等。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じ専門医の治療を受けている。主治医が、認知症に詳しいため、受診時には、必要な報告をし指示を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 毎朝、連携医療機関の看護師に、健康状態の報告をしている。看護職のスタッフが、日常の健康管理を行い、必要時に、報告、指示をうけている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 医療機関との連携あり。情報交換に気をつけ、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 医療連携体制についての同意書を取っており、重度化や、見取りに対し、その時々の方々の考えを確認しながら、利用者さんの状態を報告し、家族の希望にそった。	※	ホーム内での治療対応後、少しでも良くなって欲しいとの希望で胃ろうを作り、退院後、ホーム内で経管栄養を行った。
			(外部評価) すでにホームでのターミナルも経験しており、ホーム利用時からホームの方針を説明している。また、状況に応じて話し合っている。家族の待機場所等も検討している。	※	一つずつの経験を大切にして積み重ね、評価して次に活かすことを期待する。また、介護職員は特に夜間の対応が不安なので、具体的な検討をして教育に盛り込む事も期待する。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) フロア内のスタッフおよび、1Fのスタッフの協力もあり、苦痛を与えないよう、自分たちのできる事を理解し、医師や看護師の指示に従い対応して、看取りを行った。	※	家族が、看病に付き添い休息できる場所の十分なゆとりがないが、家族の希望時には、昼夜を、とわかない家族の付き添いができるように、支援していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ホーム内での生活の様子を報告するとともに、考えうる問題行動について、情報交換して、安心して住み替えができるように対応している。	※	これまでのケアで大切にしてきたこと、また今後必要であれば、ケアの継続をして、いちじるしい混乱を防ぐようにする。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員は、利用者さんに対して、個人情報保護法を理解し対応している。	※	失敗に対して、しかったり誇りを傷つけるような声かけや対応をしない。
			(外部評価) 態度はやさしく、言葉かけや対応は丁寧になっている。記載された記録類の取り扱い・保管も適切である。家族との情報交換、職員間の情報伝達にも気をつけている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 外出時、本人の希望にあわせ、外出を中止する。1回の声かけで、思うような返答が得られない場合は、ゆっくりと待ち、他の言い方で対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 集団生活の中において、一人ひとりが自由に日課にじばられることなく、自由にし、それぞれのペースで対応している。 (外部評価) ホーム内の大まかな時間の流れはあるが、利用者個々の生活パターンに基づいて落ち着いた生活を送っている。希望にはできるだけ沿った支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 近所のカットサロンの利用など、本人の希望に応じカットやパーマをかけて、おしゃれができるようにしえんしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの、力量に応じて、準備を手伝っていただき、食事時間をともにし、それぞれのできる片づけをしていただいている。 (外部評価) 利用者の希望も取り入れている。料理の得意な方は準備から参加し、片付けも力量に応じて参加するなど、個々のペースができています。職員も同じテーブルで食事をし、食事時間が長い方にも時々声をかけ、支援しながらゆったり食事をしている。	※	調理、皮はぎ、切る、味付け、盛り付けなど、少しでもできることをさがし、一緒に食事作りを楽しみたいと思っている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) それぞれの好みに合った飲み物を飲んでいただき、またおやつも菓子類は、どれが良いか選んでもらう		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 日中は、布パンツに尿とりの使用にするなど、少しでも気持ちよく過ごせるようにしている。また、必要時は、トイレにて介助を行い、気持ちよく排泄ができるようにしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に合わせて、入浴を行っている。体調や、入りたい時間への配慮、安全な入浴、湯の温度やシャワーの強さなど。 (外部評価) 利用者の希望を聞いて支援している。入浴を嫌がる人には職員の対応を変えたり、他の時間を利用したりと工夫している。また、夜の対応もあれば応じるようにしている。	※ ※	本人のできる事、できない事を理解して、援助の恐怖を与えないよう声かけ、またぎ、湯の深さの調節を行っている。 利用者の入浴習慣を尊重し、夜の希望もあれば検討したいと考えているので、今後の対応を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調や生活習慣に応じ、休めるよう声かけ、対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 1Fへの食材取りや水撒き、草引き、野菜の収穫猫のえさやり、洗濯物干し、たたみ、花の世話、そうじや、台所の手伝い (外部評価) 料理、洗濯物の片付け、菜園の手入れ、散歩時に花の名前を教えてもらう、裁縫、ちぎり絵、歌等で楽しんだり、自信が持てるよう支援している。	※	おはぎ作り、餅つき、など季節の行事への参加散歩や、小動物との触れ合い
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で、お金の管理をしている人もいる。買い物時は、自分で支払いをするなど、それぞれの希望や力に合わせ対応している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 中庭での日光浴、草引き、散歩など外にでるよう声かけ支援している。希望があれば、でかけるようにしている。 (外部評価) 1日1回は外出できるよう配慮している。ホームの外は急な坂道となっており、買い物や外出は車で下ることが多い。車いす利用者は2ユニット3名程度いるが、それぞれ外出を楽しんでいる。	※	個別の外出の機会を増やしていきたい。 散歩、ドライブ、買い物、お茶等のほか、個々に馴染んだ場所へ出かける支援を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 地域行事への参加 子供相撲大会、運動会、うら盆祭り、詩吟大会など		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要時には介助し、家族との交流が取れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時には、椅子を準備して、ゆっくりと話ができるようにすると共に、湯茶のサービスをしている		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていないが、禁止対象となる具体的な行為を正しく理解している職員は、少ないと思うので勉強会が必要。	※	禁止対象となる具体的な行為について勉強した。これからも、徹底していく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中、鍵をかけることはない。利用者さんに不安を与えることのない介護ができています。 (外部評価) 日中は開錠しており、自由に出入りすることができる。チャイムは作動しているが、音は小さくしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者さんが、どこで過ごされているのか、何をされているのかを把握し、見守っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 保管場所がきちんと決めてある。危険性のありそうな利用者さんについては、見守りを重視している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアルがある。情報交換をし事故防止に取り組んでいるが、知識を深め学習していくことが必要。	※	ヒヤリハットの活用
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 一年に一回、消防署の指導を受け、救命講習を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 火災時の避難訓練は行っている。 その他の訓練はできていない。 (外部評価) 職員や利用者は定期的に訓練をしている。消防署等の専門的な助言を受けている。地域の人々への訓練への参加協力を検討しているが、まだ実践できていない。	※ ※	地域住民への協力への働きかけを広げていく。 近所や地域の人々と共に訓練できるように検討をしており、できるだけ早く実現することを期待する。また、火災だけでなく地震等災害についても検討することを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 落ち着いた利用者さんや、下肢筋力の低下のある方は、転倒による骨折が考えられる事を話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェックおよび各利用者さんの表情など、変化に気をつけ、申し送りにより情報を共有している。医師の指示をうける。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が理解しているとは、いえないため、薬について、知識を増し、理解できるように対応していく 誤薬などが無い様、確認している。	※	服薬表を作り、一人ひとりが薬について分かるよう努めている。 副作用についての学習が必要
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表の利用 薬と水分摂取量の大切さ、食事量と運動の大切さの理解を深めて、声かけ支援している。	※	一人ひとりにあった対応を考えていく
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 声かけでできる方、見守り、介助の必要な方を理解し、毎食後対応を行っている。	※	うがいをする事も、難しい人もいますが、その日の状態に応じて、口腔ケアを行うようにしている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の全体量から見て、不十分な方に対しては、声かけをして、それぞれに合った、工夫をしている。 ミキサー食、エンシュア飲用、ポカリゼリー等 (外部評価) 利用者個々の食事量や水分量は記録しており、食事の仕方や好み等も把握し、献立に活かしている。できるだけ季節の食材を利用できるようにしている。また、体重測定や血液検査等で評価している。		摂取量の把握や栄養バランス等、季節毎に専門的に数値として把握しておく事を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルがある。インフルエンザワクチンの接種	※	感染症流行の情報に気をつけて、早めに対応していく。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 1日の終わりに、まな板、布巾、台ふきの消毒を行い、冷蔵庫内も定期的に掃除をして、管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 広々とした中庭や、花壇がある。車いす用のスロープや階段には手すりがあり安心できるが、外の坂道が危険性を持っている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 安心して過ごせるよう、配慮し、光の調整、テレビの音に気をつけている。四季の花も生けて、気持ちを和ませている。 <hr/> (外部評価) 畳やいすが置かれてあり、好みの場所で寛ぐことができる。台所もオープンで利用者と共に調理しやすい。トイレ、風呂も手すりや床に工夫があり利用しやすい。外の風景も目に入りやすく、季節の飾りや草花が置かれている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアには畳があり、自由に過ごせる。利用者さん同士が、お部屋を行きかうこともあり、それぞれの好みの場所がある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物を持ち込まれたり、それぞれに大切に思っている物をそばに置いている。 <hr/> (外部評価) 利用者それぞれにタンス、テレビ、仏壇、絵、人形等馴染みの物を持ち込んでおり、敷物や配置もさまざま個性がある。		

自己評価	外部評価	項目	取り組みの事実	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気や温度調節に気を付け、健康管理もでき、風邪をひかれる人が少ない		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) フロアの中央に食卓、台所、ワーカー室があり利用者さんの動きを確認しやすい。廊下には、手すりがある。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各お部屋には、顔写真がある。誤解をまねくような、大きなしみなどなく清潔である。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 散歩や、運動のできる空間があり、車道とのキリがあり、安全である。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々、一緒に、生活する中で話や行動から掴んでいるが、認知症が進行して、コミュニケーションが取りにくくなり、分かりにくいことがある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	下肢筋力が低下している人が多いため、職員もゆっくり、ゆったり、慌てさせないように支援している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどない	自室で過ごすことができる人が多いため、見守りながら自分のペースで生活されている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一度座ると動かせない方がいて、その人への声かけ、工夫、援助の仕方が必要。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	身体能力が低下している人が多く、車椅子での介助が必要で、外出支援が不足している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	見守り、対応できているが、立地上、門の下の坂道が危険である。皆、高齢で、持病があり、認知症ゆえ、自覚症状や訴えが少ないので、医療連携体制は強化している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	それぞれの個別支援に応じて、安心して暮らしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時には、家族と話すようにしているが、家族により個人差がある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	地域の人が、気軽に立ち寄ってくれるまでには、まだなっていない。家族が、グループホームに入所していることを知らせていない場合、馴染みの人の訪問は、難しいと思いますが、。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	保育所訪問のとき、保護者の方に椅子を出していただいたり、運動会の時など、席を設けてもらっている。うら盆祭りでは、公民館の方、商工会議所の方に協力していただいた。
98	職員は、活き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員は、毎日、元気で、明るく楽しく仕事をしている。時には、しんどい時もあるが、プロとして、自己の健康管理と、精神の安定が必要だと思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	それぞれの希望に応じて、支援できていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	意見箱への意見や苦情がなく、本当に満足されているのか、あるいは、本心を伝え切れていないのかわからない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設の中庭からは、清流肱川のゆったりした眺めを見ることができ、ホームの2本の桜が季節を感じさせてくれます。毎月1回、詩吟の先生に、声だし練習や、詩吟、歌を指導していただき、口腔機能が低下しないように、日々取り組んでいます。地域行事の白滝うら盆まつりでは、笹飾りを作り、通りにかざってもらっています。また、保育園児との、楽しい交流もしています。